

## 乳幼児の情緒形成不全の早期発見方法の研究

分担研究者 澤 田 敬  
(高知県立西南病院小児科)

**研究要旨** 乳幼児期に安定した親子関係を確立し、心の安全基地(ボールビー)を作ることで、思春期以後の精神的混乱の大部分は予防できる。この目的を果たすために幼児期に満たされていない心の叫びや、乳幼児期の不十分な親子関係を早期に発見し、早期に適切な介入をする事が大切である。

1) 幼児は心的外傷を受けストレスが貯まると心身症、気になる癖、異常行動(以下まとめて心身症とする)となる<sup>1)</sup>。心身症は「このままでは一人前の大人になれません。助けて下さい」という心の叫びだと言われている<sup>2)</sup>。親子関係で心が満たされると心身症は消失する<sup>3)</sup>。幼児の心身症を利用したチェックリストを作り、現在保育所で調査中である。

2) 心が満たされなく、心の安全基地を作れない不安定な母子関係を早期に発見するためAIDS尺度<sup>4)</sup>を利用し、現在保育所で調査中である。

3) 子どもの心は両親に甘えることで満たされ、ストレスの症状である心身症は消失する。しかし子どもの甘えを十分に受け入れることが出来ない父母がいる。このような父母は三つのタイプに分けられる<sup>5)</sup>。

①現在辛いことを抱えて悩んでいる。

②子ども時代に辛いことがあり、その心的外傷が未だに癒されていない。

③子どもにストレスを与える世代間伝達(親は自分が子どもの時代に両親から育てられたと全く同じように、無意識に自分の子どもを育てる)がある。

育児困難な父母のチェックリストを利用し、早期に育児困難な父母を発見し、親子介入する必要がある。現在産科で調査中である。

以上三種のチェックリストを利用し、心が満たされていない幼児、心の響き合いが出来ていない親子、子どもを受け入れる事が出来ない親子を早期に発見し、早期に介入する方法を探っていく予定である。

### ■ 研究目的

乳幼児は父親母親に温かく holding(抱きかかえ)<sup>1)</sup>されると、父母に遠慮無く甘えて、喜怒哀楽をぶつけてゆき、父母に対する信頼感を強め、心の安全基地<sup>2)</sup>を作ってゆく。乳幼児期に安定した親子関係を確立し、心の安全基地を作ることで、最近社会問題になっている思春期以後の精神的混乱の大部分は予防できる<sup>3)</sup>。この目的を果たすために乳幼児期に満たされていない心の叫びや、親子関係を早期に発見し、早期に適切な介入をすることが大切である。今回は幼児期の心の叫びの発見方法、問題のある親子関係の発見方法、育児困難な両親の早期発見方法を探ってみた。

### ■ 研究方法

1) 幼児は種々の心的外傷を受け、ストレスが貯まると心身症、気になる癖、異常行動(以下まとめて心身症とする)となる。心身症は満たされない心の叫びである<sup>1)</sup>。

高知県立西南病院小児科精神衛生外来を受診した乳幼児の心身症を調べ、心身症を利用したチェックリストを作成した。

2) 心が満たされなく、心の安全基地をつくれな不安定な母子関係を早期に発見するためAIDS尺度(表1、図1)<sup>4)</sup>の利用方法を、現場の保母を通して調査してみた。

3) 乳幼児の心は父親母親に甘えることで満たされ、ストレスの症状である心身症は消失する<sup>1)</sup>。しかし子どもの甘えを十分に受け入れることが出来

A I D S R 度

表1

ストレス時の母親-乳幼児愛着指標に関する MASSIE - CAMPBELL 尺度  
(小児科診察および他のストレスとなる小児ケア場面での使用のために)

A. ストレス状況時の乳幼児の行動		B. 乳幼児のストレスに対する母親の反応			
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	X
注 視 1/1 いつも 母親の顔か 目をそら ず。	2/1 まれに 母親の顔を見 ます。母親 の顔をさっ と見る。	3/1 時々母 親の顔を 見る。母親 の顔をさっ と見る。	4/1 しばし ば母親の顔 を長くまた 短く注視す る。	5/1 長時間 釘づけにな る。	6/1 行動 は観察不 明
発 声 1/2 沈黙。 一度も声を 上げない。	2/2 まれに 声を上げる。 またはささ やく。	3/2 時々声 を上げる。 または弱く 泣く。	4/2 しばし ば声を上げ る。または 強く泣く。	5/2 静観で 間強く泣く。	6/2 行動 は観察不 明
接触(a) 1/3 決して 母親に触れ たり、近づ いたりしな い。	2/3 まれに 母親に触れ る。	3/3 時々母 親に触れる。	4/3 しばし ば母親に近 づき触れる。	5/3 そばに いる時、い つも母親に 触れる。	6/3 行動 は観察不 明
(b) 1/4 いつも 母親の接触 から身を引 く。	2/4 しばし ば母親の接 触から身を 引く。	3/4 時々母 親の接触か ら身を引く。	4/4 まれに 母親の接触 から身を引 く。	5/4 決して 母親の接触 から身を引 かない。	6/4 行動 は観察不 明
抱っこ 1/5 乱暴に 抱っこに抵 抗する；い つも母親か ら写なりに 身を離す。	2/5 母親の 胸の中でく しゃばる。	3/5 母親の 腕や肩にも しゃばる。	4/5 母親の 顔を向けて 押しつける。	5/5 強固的に 身を離さ ない。	6/5 行動 は観察不 明
感 情 1/6 いつも 強く苦悶し、 恐れている。	2/6 しばし ば不安と/ま たは喜び； 無感動であ る。	3/6 断続的 に不安と/ま たは喜び； または不明 瞭である。	4/6 まれに 緊張する。 または笑い ている。	5/6 いつも 微笑してい る。	6/6 行動 は観察不 明
接近度 1/7 決して 視線または 視線で母親 を追わない ；隣の方に 行く、また は部屋から 出ていく。	2/7 まれに 視線または 視線で母親 を追う。	3/7 断続的 に視線で母 親を追う。	4/7 しばし ば視線で母 親を追う。	5/7 いつも 視線で母親 を追う。	6/7 行動 は観察不 明
注 視 1/8 いつも 子どもの顔 から目をそ らす。	2/8 まれに 子どもの顔 を見る。子 どもの顔を さっと見る。	3/8 時々子 どもの顔を 見る。	4/8 しばし ば子どもの顔 を長く、ま たは短く注 視する。	5/8 検査の 時子どもの顔 を見つめに 注視する。	6/8 行い は観察不 明
発 声 1/9 沈黙。 決して声を 発しない。	2/9 まれに 言葉を発す る。喉を鳴 らす、また はささやく。	3/9 時々子 どもの顔を 見る。喉を鳴 らす、また はささやく。	4/9 しばし ば強し声を 発する。喉 を鳴らす。 ける。	5/9 検査の 時、強く注 視する。	6/9 行い は観察不 明
接触(a) 1/10 決して 子どもの顔 に触れな たり、近づ いたりしな い。	2/10 まれに 子どもの顔 に触れる。	3/10 時々子 どもの顔に 触れる。	4/10 しばし ば子どもに 近づき、触 れる。	5/10 そばに いる時、い つも子ども に触れる。	6/10 行い は観察不 明
(b) 1/11 いつも 子どもの顔 から身を引 く。	2/11 しばし ば子どもの顔 から身を引 く。	3/11 時々子 どもの顔か ら身を引く。	4/11 まれに 子どもの顔 から身を引 く。	5/11 決して 子どもの顔 から身を 触らない。	6/11 行い は観察不 明
抱っこ 1/12 気分を 悪くして子 どもを突き 離す。また は身体から 離して抱く 。	2/12 堅くなく っつこく子 どもを抱く 。	3/12 短時間、 つかつか子 どもを抱く 。	4/12 子ども が静かにな るまで身体 をびたり保 持する。	5/12 身体を 子どもの方 にかがめて いる。強い 子どもにつ け、接触を 保ち続ける。	6/12 行い は観察不 明
感 情 1/13 いつも 強く苦悶し、 恐れている。	2/13 しばし ば不安と/ま たは喜び； 無感動であ る。	3/13 断続的 に不安と/ま たは喜び； または不明 瞭である。	4/13 まれに 緊張する； 笑いしてい る。	5/13 いつも 微笑してい る。	6/13 行い は観察不 明
接近度 1/14 決して 視線または 視線で母親 を追わない ；隣の方に 行く、また は部屋から 出ていく。	2/14 しばし ば視線で母 親を追う。	3/14 断続的 に視線で母 親を追う。	4/14 しばし ば視線で母 親を追う。	5/14 いつも 視線で母親 を追う。	6/14 行い は観察不 明

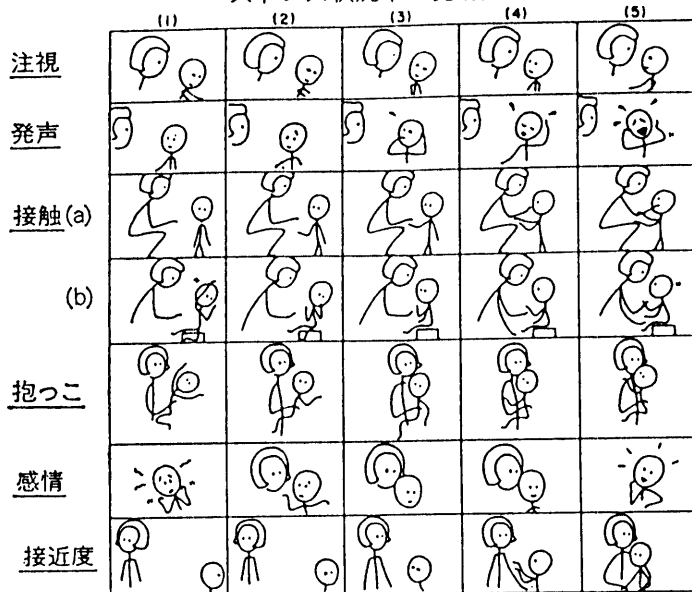
図1

氏名 \_\_\_\_\_、年齢 \_\_\_\_\_ 歳、性別 \_\_\_\_\_、(母子、父子) 関係  
 気になる行動、癖 (あれば) :

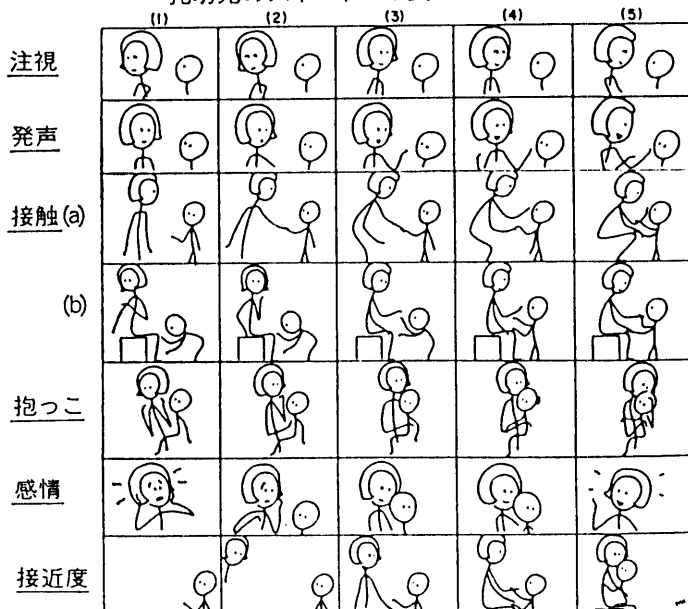
親子を観察し下記の絵で該当するものに0をつけて下さい。

AIDS尺度による母親-乳幼児行動

ストレス状況中の乳幼児の行動



乳幼児のストレスに対する母親の反応



(絵は Mimi Horne による)

ない父母がいる。父親母親がどうして子どもを受け入れられなくなったかを、精神衛生外来を受診した乳幼児の父親、母親を調べその原因をさぐり、そのデータより育児困難な父母の早期発見チェックリストを作成した。

## ■ 研究結果

### 1. 幼児のストレスチェックリスト

乳幼児の心身症について調べてみた(表2)。幼児の心身症に対して、親子をone unit、症状を関係

てもらった。児は母に激しく甘え、6日後すっかりよくなった。

#### 症例3 4歳 男児 被虐待

2歳頃より父母が怒鳴る、叩く、蹴る、児の頭を壁に打ちつける。風呂の水の中に頭を突っ込む、山に置き去りにする等虐待あり。3歳保育所入園。園で他の子どもを叩く、噛みつく。自分の頭を壁に打ちつける。友達と遊ばなく、保母に激しく甘えた。父母の虐待は続いたが、保母の介入で父母の虐待回数が徐々に少なくなった。児も父母にだんだんと甘えられるようになった。園で保母への激しい甘

表2 精神衛生外来患者(0~6歳)(平成2年5月~11年2月)

(高知県立西南病院小児科)

(516名 2つの症状がある場合2人とした) (%)

1) 腹痛・悪心・嘔吐	118 (22.9)	13) 胸痛・息苦しさ	12 (2.3)
2) チック症	51 (9.9)	14) 吃音	12 (2.3)
3) 下肢痛・しびれ・歩行障害	49 (9.4)	15) 頸部痛	10 (1.9)
4) 頻尿	36 (7.0)	16) 登園・登校をしぶる	9 (1.7)
5) 尿・便失禁	20 (3.9)	17) 指しゃぶり・爪噛み	8 (1.5)
6) 頭痛	19 (3.7)	18) 性的異常行動	7 (1.4)
7) 目線が合わない	19 (3.7)	19) 心的外傷後ストレス障害	7 (1.4)
8) 言語発達遅延	18 (3.5)	20) 被虐待児	7 (1.4)
9) 夜泣き・夜驚症	18 (3.5)	21) 脱毛・抜毛	6 (1.2)
10) 夜尿	18 (3.5)	22) 移行対象	6 (1.2)
11) パニック	17 (3.3)	23) 窃盗	3 (0.5)
12) 食行動異常	13 (2.5)	24) その他	33 (6.4)

性障害ととらえ、抱っこ、おんぶ、添い寝、一緒に風呂に入る、楽しく遊んでやることで心は満たされ、ほとんどの心身症は消失し、その上心の安全基地も強化される。この治療方法を筆者はアタッチメント療法(甘え療法、抱っこ・おんぶ・添い寝・親子入浴療法)<sup>4)</sup>と呼んでいる。

#### 症例1 2歳9カ月 男児 排尿障害

24カ月で排便、排尿ともに自立していた。25カ月妹出生。やきもちがひどく妹を叩く、踏みつけるなどし、その都度怒っていた。2歳半頃より家の中、所かまわず排尿する。母が怒れば怒るほどひどくなる。甘えも「おしっこを教えない子は嫌い」と言って拒否していた。母に甘えの全面的受容と児には父母への甘えを勧めた。その日から児は徐々に甘えるようになり、3カ月後排尿異常はすっかり無くなった。

#### 症例2 8歳 女児 ヒステリ・発作

2歳時妹、6歳時弟出生。手がかからなく、お手伝いをよくする良い子だった。学業成績上。突然に傾眠、不穏状態になり入院。拒食、泣き叫ぶ、暴れる、突然に走り回る、尿便失禁あり便を手足口に塗り付ける。立って排尿をする。母に噛みつく。時には全く正常になる。医師看護婦の前では正常になり学校の話をする。母に甘えを全面的に受け入れ

えはずっと続いた。6歳になると他児への攻撃は全く無くなり、友達と遊べるようにもなった。父母の虐待もほとんど無くなった。保母の親子介入は続けていった。現在小学校1年生。特に問題なく、友達ともよく遊び、落ち着いて勉強している。先生への甘えは続いている。

症例のように心身症は、養育者への甘えで心が満たされると消失する。と言うことは心身症を早期に発見して、養育者に甘えさせれば心は満たされ心の安全基地が確立し、思春期以後の精神的混乱の予防になる。

乳幼児心身症統計(表2)を参考にして心身症を応用してのチェックリストを作成した(表3)。今後保育園で試行予定である。

### 2. 母親-乳幼児愛着関係チェックリスト

子どもはストレスを感じても父母にholdingされると、遠慮なく甘えて、ストレスは消え、心が満たされる。問題は母親がholding出来ているかどうかであり、児が遠慮無く甘えてゆけているかどうかである。母子の愛着関係の調査で、AIDS尺度が使用できるかどうかを保育所保母を対象に調べてみた。

AIDS尺度の説明文を見せず、絵のみを見せ、お



	ストレス状況中の乳幼児の行動	乳幼児のストレスに対する母親の反応
注視	0.1	0.6
発声	1.1	0.8
接触 (a)	0.6	0.4
(b)	0.6	0.8
抱っこ	1.0	1.0
感情	1.5	0.8
接近度	1.0	0.8

表6 育児困難な父母に対するチェックリスト

氏名 \_\_\_\_\_ 年齢 歳 夫の年齢 歳 結婚後 年  
 当てはまるものに0（複数可）、（ ）内には適当に記入して下さい。

A) 現在

1) 何でも相談できる友達： いる いない

2) 今回の妊娠について： 嬉しい 嬉しくない

3) 今の子ども：（ ）人 可愛い 可愛くない 時々うるさくなる

4) 家事・育児などに対する夫の協力： 十分 不十分 全く無し  
 夫とお腹の中の赤ちゃんのことや上の子どものことを： 良く話し合う  
 時々話し合う 全く話し合わない

5) 家庭内の気になること： 無 有（ 経済的なこと 子どものこと 夫のこと  
 あなたの父母のこと 夫の父母のこと 病人のこと その他 ）

6) あなたの父親：関係がうまくいっている うまくいっていない 同居 別居 死別  
 母親：関係がうまくいっている うまくいっていない 同居 別居 死別

7) 夫の父親：関係がうまくいっている うまくいっていない 同居 別居 死別  
 母親：関係がうまくいっている うまくいっていない 同居 別居 死別

B) あなたや夫は、子ども時代をどのように過ごしたでしょうか

1) あなたが子どもの時、あなたに対して

あなたの父親： やさしかった こわかった 相手になってくれた  
 相手になってくれなかった 子ども時代離別  
 母親： やさしかった こわかった 相手になってくれた  
 相手になってくれなかった 子ども時代離別

あなたの兄弟姉妹：（ ）内に男女を書きあなたのところに0をつけて下さい  
 1（ ）, 2（ ）, 3（ ）, 4（ ）, 5（ ）, 6（ ）

あなたと兄弟姉妹： 一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった  
 弟または妹の子守をよくした

父母以外の人に育てられた：祖父母（父方 母方） 親戚（父方 母方） 施設

子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ  
 ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした  
 赤ちゃんの世話をよくした

2) 夫の話から想像して夫が子どもの時、夫に対して

夫の父親： やさしかった こわかった 相手になってくれた  
 相手になってくれなかった

夫の母親： やさしかった こわかった 相手になってくれた  
 相手になってくれなかった

夫の兄弟姉妹：（ ）内に男女を書き夫のところに0をつけて下さい  
 1（ ）, 2（ ）, 3（ ）, 4（ ）, 5（ ）, 6（ ）

夫と兄弟姉妹：一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった 子守をよくした

父母以外の人に育てられた：祖父母（父方 母方） 親戚（父方 母方） 施設

子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ  
 ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした  
 赤ちゃんの世話をよくした

落ち着きが無くいらしている。父38歳。父の父親は厳しく、すぐ暴力をふるい怖かった。母親は父親の言うなりで、父親の暴力から子どもを守ってくれなかった。思い出すと今でも腹が立つと言う。父は子ども(3人)が言うことをきかないと、怒鳴りつけ、すぐ叩く。児はすごく怖がる。母が止めても聞き入れない。時には母にも暴力がある。半年後父母離婚。祖父母に助けられ母は子どもを受け入れ、児も母に甘えるようになった。1年後児は落ち着き頻尿も無くなった。

③子どもにストレスを与える世代間伝達がある。(親は自分が子ども時代に養育者から育てられたと同じように、無意識に子どもを育てる)。

症例 5歳 女児 落ち着きがない

母が「この子は最近落ち着きがない」と言って来院。聞くと1歳から早期教育塾に通い、2歳8カ月から、ピアノ、英会話にも通っているという。児はお利口で母に甘えない。児に聞くともっと母に抱っこしてもらいたい、友達と遊びたいという。母の母親も教育熱心で、3歳から塾に行きいろいろの事を習った。そのお陰で良い進学中学、進学高校に通え、良い大学に行けたという。児の気持ちを説明し塾を少なくし、甘えを受け入れてもらうことに

した。児は大分母に甘えるようになり、大分落ち着きも出来てきている。

このような症例を検討して育児困難父母を早期に発見するチェックリストを作った(表3)。産婦人科で試行予定である。

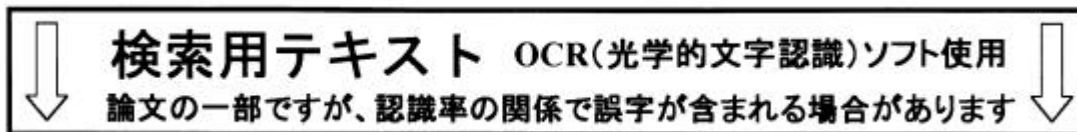
#### ■ 考案及び結び

最近の思春期以後の精神的混乱は、想像を絶するものがある。その異常行動は低年齢化し小学生にも混乱が起こっている。このような精神的混乱は起こってからでは対応が非常に難しくなる。なんとしてでも予防しなくてはいけない。予防するには幼児期の豊かな心の発達が大切である。

早期に幼児の心の叫びをキャッチするため、また心の響き合いがスムーズにいけない親子を早期に見つけるため、そして育児困難な父母に対してその原因を早期に見つけるため3種類のチェックリストを作成し検討してみた。その結果3種類とも実用可能と思われたため、今後保育所、病院産婦人科で施行してみる予定である。実用可能と実証されれば、これらを使用しリスク症例を早期に見つけ、早期の治療的介入方法について検討してゆく予定である。

#### 参考文献

- 1) D.W.Winnicott (牛島定信 訳)：情緒発達の精神分析理論、岩崎学術出版社、1977
- 2) J.Bowlby、(二木武 監訳)：母と子のアタッチメント、医歯薬出版株式会社、1993
- 3) 岡野憲一郎：外傷性精神障害、岩崎出版株式会社、1995
- 4) 澤田敬：乳幼児の心身症.小児科診療 61 175-181、1998
- 5) H.N Massie(生田憲生 訳)：ストレス時の母親・乳幼児愛着指標に関する Massie-Campbell 尺度 (AIDS 尺度)、J.D Call et al.(小此木啓吾 監訳) 乳幼児精神医学 384-419、1988



研究要旨 乳幼児期に安定した親子関係を確立し、心の安全基地(ボールビー)を作ること  
で、思春期以後の精神的混乱の大部分は予防できる。この目的を果たすために幼児期に満  
たされていない心の叫びや、乳幼児期の不十分な親子関係を早期に発見し、早期に適切な  
介入をする事が大切である。

1) 幼児は心的外傷を受けストレスが貯まると心身症、気になる癖、異常行動(以下まとめて  
心身症とする)となる 1)。心身症は「このままでは一人前の大人になれません。助けて下  
さい」という心の叫びだと言われている 2)。親子関係で心が満たされると心身症は消失す  
る 3)。幼児の心身症を利用したチェックリストを作り、現在保育所で調査中である。

2) 心が満たされなく、心の安全基地を作れない不安定な母子関係を早期に発見するため  
AIDS 尺度 4) を利用し、現在保育所で調査中である。

3) 子どもの心は両親に甘えることで満たされ、ストレスの症状である心身症は消失する。  
しかし子どもの甘えを十分に受け入れることが出来ない父母がいる。このような父母は三  
つのタイプに分けられる 5)。

現在辛いことを抱えて悩んでいる。

子ども時代に辛いことがあり、その心的外傷が未だに癒されていない。

子どもにストレスを与える世代間伝達(親は自分が子どもの時代に両親から育てられた  
と全く同じように、無意識に自分の子どもを育てる)がある。

育児困難な父母のチェックリストを利用し、早期に育児困難な父母を発見し、親子介入す  
る必要がある。現在産科で調査中である。

以上三種のチェックリストを利用し、心が満たされていない幼児、心の響き合いが出来て  
いない親子、子どもを受け入れる事が出来ない親子を早期に発見し、早期に介入する方法  
を探ってく予定である。